

## 研究会員の声 6

これらは責任のとれない立場からの生の声を記録したものですので、誤解などあるかも知れません。それを承知でお読みください。

○ HZ 社は人血造船と揶揄されているが、「人血造船」や「ひとち造船」でネット検索すれば出てくるようになってきているね。

○ これまででは一流企業が盗人するとは信じられなかったが、オ・社や大・社をみると必ずしもそうでないことは分かる。これらの社は明示的に立件の方向へ行ったが、“ひとち造船”社は法の境界線上を弁護士を入れ、彼我の力量を勘案して“盗人”するわけである。これはヤクザとどう違うか。ヤクザも摘発されるような行為をいつも行っていれば採算が合わず食えなくなるから、摘発されないように法すれすれで事を行う。エヌビエル社倒産は特別背任行為である。資料を内に握っているだけに立件には多大の労力を要する。それらを勘案しての行為であろう。

○ このような行為が放置されていることこそ問題である。それに沿って、新年の”お年玉”として、“ひとち造船”会長・社長が副会頭を務める大阪商工会議所にその説明を求め、社会的責任を確認する文書を送ったことは、評価できる。ねばり強く行うべきである。

○ 旧エヌビエル社から金目のもののみを取り込み名前だけ付け替えた”人血造船コンポジットマテリアル社”の実体・りんくうアウトレット南端隣接緑色建物はそのままだね。組本部 HZ から派遣された子分経営陣は代表を仁科から柳原へ交代しただけで基本はそのまま。黒幕 HZ 桑原（旧）部長は表舞台から姿を隠し、子分グループを表に立てた新会社は会社ぐるみの悪事に、子分グループが気兼ねなく荷担できるよう、免責条項を登記に記載（研究会員の声 5 参照）しているではないか。

○ ”ひとち造船社”はさすがお金になる芽の目は持っていたといえる。西野式 FRP 高圧管は盗む価値があると思うから盗人するわけである。ただそれを完成させる技術を持っていないから風前の灯火である。対する追い出された Dr. Nishino のグループはそれを本業として完成させつつある。ただ、“ひとち造船”に対する 140 億円裁判など裁判費用の蓄積には時間がかかるので、あせらず着実にを行うのがいいであろう。

○ 現状、本事業ではいずれ”ひとち造船”は撤退せざるを得ず、その投資金の損害は数十億円となるであろう。一方、Dr. Nishino G は株と手形で数億円の泥棒被害である。Dr. Nishino は 140 億円訴訟を後ろ向きの損回復ではなく、前向きの世直し費用としてとらえている。同様の被害は”ひとち造船”による（旧）大波運輸倉庫(株)乗っ取り・他にも発生しており、連携の検討もすべきではないか。